

★胃がん検診を受ける方へ★

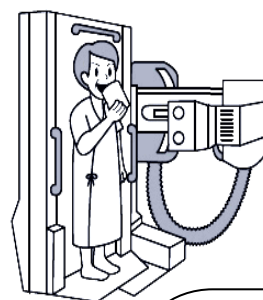
◎胃 X 線撮影

胃を膨らませる発泡剤を飲んだ後にバリウム（造影剤）を飲み、さまざまな角度から胃の内部を X 線で撮影します。

※胃がん検診で必ずがんを発見できるわけではありません。がんがあっても異常なしと判定されること（偽陰性）や、がんがなくても精密検査が必要となること（偽陽性）があります。

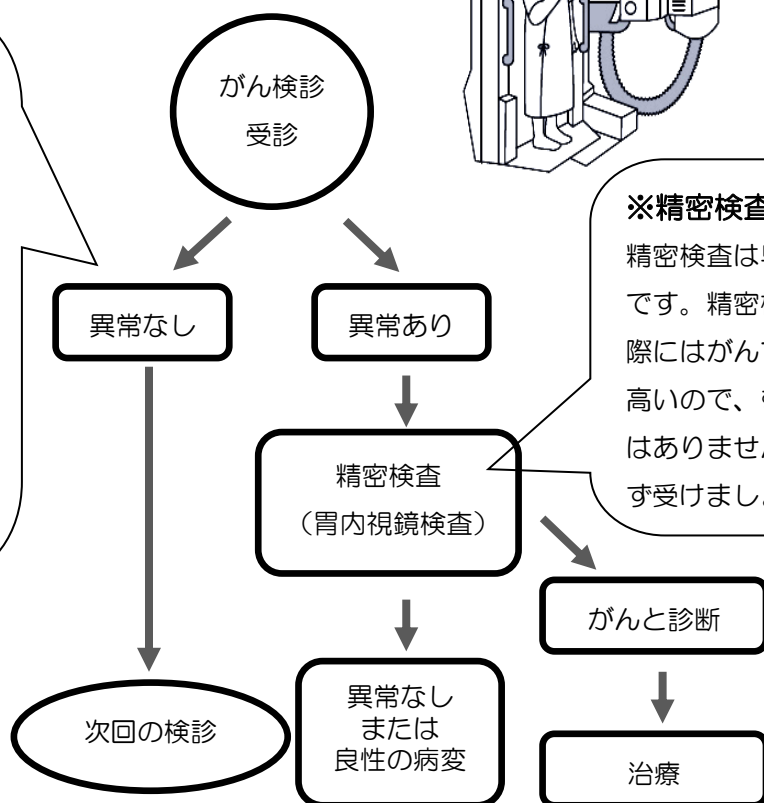
◎検診の流れ

対象:50 歳以上の男女



※検診後の注意点

- ・下剤は忘れずにお飲みください。
- ・バリウムが長時間腸の中に残っていると、便が固くなり、排泄されにくくなります。極めてまれに、腸内に穴が開いたり、便が詰まったりする恐れがあります。今日一日はできるだけ多く水分をとって下さい。



※精密検査といわれたら…

精密検査は早期発見のチャンスです。精密検査を受けても、実際にはがんではない確率の方が高いので、むやみに怖がる必要はありません。精密検査は必ず受けましょう！

◎精密検査について

胃がん検診の結果、精密検査が必要になった場合は、必ず胃内視鏡検査による精密検査を受けてください。内視鏡検査は超小型カメラを口からまたは鼻から、胃の中に挿入して胃内部を多方面から撮影し、組織や分泌物などを採取する検査です。

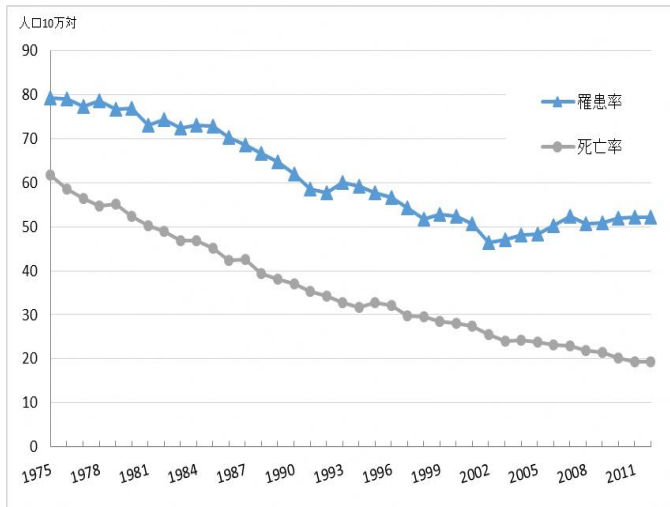
◎結果の通知について

検診結果は、約1か月後に郵送いたします。

精密検査が必要な場合は、紹介状やレントゲン写真等をお渡ししますので、保健センターにお越しください。よろしくお願いいたします。

裏面もご覧ください

いまだ多い胃がん！！



「統計でみる大阪府のがん」参照

- がん検診は自覚症状がない方を対象としています。
- 胃がんは、早期に発見し治療をすれば、予後はよくなります。
- 胃の痛み、不快感、違和感、胸やけ、食欲不振、吐き気が続くなど、異常を感じた場合は、次の検診まで待たず、すぐにお近くの医療機関を受診しましょう。

わが国で行われた研究によると、検診を受けることにより、胃がんによる死亡の危険性は半分以上になるといわれています。早期に発見すれば、内視鏡治療も可能です。

検診の精度を保つために

効果的で精度の高い検診を実施するためには、みなさまの検診結果を正確に把握する必要があり、ご本人や精密検査医療機関に検診結果の追跡調査を行う場合があります。検診結果は市で集計した後、国に報告し、有効性の評価などに用いられます。これらはすべて個人情報保護法を遵守しており、前述の目的以外に使用することはありません。主旨をご理解いただき、ご協力をお願いいたします。

1年に1回は検診を受けましょう。

胃がん検診の受診間隔は1年度に1回です（※前年度、一次検診で市の胃内視鏡検診を受診された方は2年度に1回のため今年度の胃がん検診は受診不可）。毎年定期的に検診を受診しましょう。ただし、自覚症状があるときは、すぐに専門医を受診しましょう。

四條畷市立保健センター (☎) 072-877-1231